

私の仕事



伊勢市消防署二見出張所第2係
森 壮生 さん

小学生のとき、近所で発生した火災を目撃。そのとき見た消防士の姿に憧れを抱きました。高校生のときに、高柳商店街の火災を目の当たりにし、消防士を目指すことを決意。高校卒業後、消防士の道へ。

南海トラフ巨大地震が実際に起きたときに、一人でも多くの命を救い、そして消防士という存在が被災後の伊勢市民の心の支えになれるよう、精進したいと訓練を重ねています。

7月に開催予定の「消防救助技術大会東海地区指導会」の伊勢市消防代表に選抜。オレンジ色の救助隊ユニフォームを着用し、大会に向けて、競技の精度を高めています。

採用：平成31年度
配属歴

平成31年 (令和元年)	二見出張所第2係
-----------------	----------

出張所勤務

伊勢市消防本部には、管内に3つの分署と3つの出張所があります。それぞれ、24時間交代勤務で、救急や救助、警防、予防業務、講習など、すべてを協力しながら担います。広い知識が必要で、幅広い経験を積むことができます。

二見出張所では、観光客から、道を聞かれることがあります。せっかとお越しいただいたので、案内ができるようにしています。分署・出張所ご

とに地域性があり、消防団との連携が深いのも分署・出張所の特徴です。また、海に近いことから、地震・津波への備えについては、意識が高いと思います。

印象に残っている出来事

初めての出勤は、印象に残っています。当たり前のことが思うようにできず、不思議な感覚でした。隊長の落ち着きのある振る舞いに、安心したことを覚えています。

しかし、この経験があったから、出勤前の準備や緊張感について考え、訓練を積み重ねることができています。

働き始めてからのギャップ

消防士は火事を消し、人を助ける仕事というイメージでしたが、実際は、救急や火災予防に関する仕事の方が多く、さまざま

油圧救助器具



まな分野の勉強をしなければいけないと感じています。

自分がチャレンジしたい分野に向かうには、それ以外の分野にも、努力を惜しまないことだと思います。

対応力と柔軟性

これから先、あらゆる最新技術が導入されていくと思います。知識・技術を追求していかなければ、止まることなく進化している車や建物での火災に、従来の技術では、効果が期待できないもの

も出てくるはずですが。このため、従来の技術や知識に固執せず、最新技術にも対応できる柔軟性が必要と考えます。

受験を考えている人へのメッセージ

消防士になることが、ゴールではなくスタートだということを忘れないでください。

自分の、かついいと思える消防士像を目指し努力することが、市民の求める消防士に近づいていくことだと思います。

指導会では「ロープ登はん」競技に出場



「消防士あるある」を聞いてみました

- 火災のニュースが報道されると、もし同じような規模の災害が起きたら、どのような活動をするべきか考える
- 建物や地理を見て、ここで救助するならどうしようかと考える
- 一日体を休めると動きたくなくなる（思い立って名古屋まで歩いたことがあります）